

平成 28 年度

沖縄女子短期大学

自己点検・評価のまとめ

平成 29 年 5 月

目 次

1. PDCAに基づく評価票	2
2. To Do リスト	9

1. PDCAに基づく評価票

総合ビジネス学科のPDCA（平成28年度）

総合ビジネス学科の目的（使命と課題）	
建学の精神を踏まえ、それぞれのビジネスの現場で、自分らしくキラキラ輝く素敵な女性を育成する。	
総合ビジネス学科の達成目標（P）	
① 講義及びカリキュラムの充実	② 社会人基礎力の向上
② 生活・学習の支援	④ 研究の充実
⑤ 高大連携の充実	⑥ 就職支援の充実
総合ビジネス学科の行動目標（D）	
① 授業評価アンケートを基にした講義改善を行い、学習意欲を高める指導の充実を図る。	
② 社会人基礎力を向上させるためのカリキュラムの策定・見直しを行う。	
③ 個々の学生に応じた支援を工夫する。	
④ 個人研究および共同研究を充実させる。	
⑤ 総合ビジネス学科としての高大連携の取り組みを充実させる。	
⑥ 就職支援の充実を図る。	
総合ビジネス学科の評価基準（C）	評価結果
① 授業改善のためのFD研修が2回実施できたら、「3」とする。	1 2 ③ 4
② カリキュラムの見直しができたら、「3」とする。	1 2 3 ④
③ リメディアル教育をカリキュラムの内外に取り入れたら「3」とする。	1 2 ③ 4
④ 学科の教員が研究成果を公表できたら「3」とする。	1 2 ③ 4
⑤ 高大連携の新たな取り組みを行ったら「3」とする。	1 2 ③ 4
⑥ 就職支援の取り組みを行ったら「3」とする。	1 2 3 ④
総合ビジネス学科の評価結果に基づく改善計画（A）	
評価基準①：目標の2回実施を達成できたので、次年度は更なる研修の充実を図る。	
評価基準②：現行カリキュラムの見直しについては、学科会議や学科FD研修を通して検討を重ねた結果、平成30年度のカリキュラムを改定した。今後は新カリキュラムの検証を行う。	
評価基準③：基礎学力のチェックを行い、習熟度に合わせたリメディアル教育を行った。今後は、更なる基礎学力の向上を目指し、オコジョリルのさらなる活用を図る。	
評価基準④：今年度は一定の成果を上げた。次年度は、現状を維持しながら、個人研究、及び共同研究の充実を図る。MICEに関する調査研究を進める。	
評価基準⑤：今年度目標の「2講座開講」以上の実績を残した。今後は、更に地域社会や高校との連携を図りながら、講座の充実に努める。専任教員の出前講座の充実を図る。	
評価基準⑥：学生支援課との連携のもと、学生の就職意欲向上に向けて取り組む。	

評価結果は1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、4：かなり達成された

児童教育学科のPDCA（平成28年度）

児童教育学科の目的（使命と課題）	
児童教育学科では、建学の精神および教育目的・目標に基づき、「郷土の自然と文化を誇りとし、時代の変化を捉え、学び続ける力をもって地域社会へ貢献しうる乳幼児ならびに児童の保育・教育に資する人材を養成すること」を学科の教育研究上の目的とし、愛情豊かに子どもたちを育む将来の保育士・幼稚園教諭、小学校教諭を養成することを目指している。	
児童教育学科の達成目標（P）	
① 講義及びカリキュラムの充実 ② 教養教育と職業教育の充実 ③ 生活面・学習面の支援体制の充実 ④ 研究面の充実 ⑤ 地域社会への貢献	
児童教育学科の行動目標（D）	
① 教育の質の保障・向上のため、学校教育法、児童福祉法、短期大学設置基準、免許・資格関連の法令・規定等を確認・順守する。 ② 各種実習、学校支援ボランティア、保育支援ボランティアを通して教育・保育現場のニーズを捉え、学生の体験的学びを充実させる。 ③ 教務課との連携・協同に努め、実習指導体制を整備・強化する。 ④ 授業改善と教員の質の向上のため日々研究に努める。 ⑤ 地域社会の要請・ニーズに敏感に対応する。	
児童教育学科の評価基準（C）	評価結果
① 各基準、学内規定に基づいた授業向上、改善できれば"3"	1 2 3 ④
② 各実習、ボランティアなど、現場のニーズをふまえ改善できれば"3"	1 2 3 ④
③ 学生支援体制が強化されれば"3"	1 2 ③ 4
④ 教員の授業改善・質の向上、研究活動への取り組みに努めたら"3"	1 2 ③ 4
⑤ 地域社会への貢献が認められれば"3"	1 2 3 ④
児童教育学科の評価結果に基づく改善計画（A）	
・授業公開による相互学習の計画的実施による授業改善 → 継続 ・学校支援ボランティア保育支援ボランティアの充実・発展 ・実習内容充実のための学外及び学内各部署における連携体制の強化 ・与那原町及び近隣市町村との連携推進 → 継続	

評価結果は1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、4：かなり達成された

※（A）における下線部分の文言は今年度の追記

図書館のPDCA（平成28年度）

<p>図書館の目的（使命と課題）</p> <p>1. 学生・教職員に必要な学術情報を選定、収集、整理、保存し、利用者に提供できるようにする。（学習支援・研究者支援）</p> <p>2. 卒業生・専門職者への支援をする。 （卒業生、保育所・幼稚園・小学校等で働いている方への支援）</p>	
<p>図書館の達成目標（P）</p> <p>① 学生及び教職員が利用しやすい図書館環境を作る。</p> <p>② 学科関連資料の充実。</p> <p>③ 資料の管理。</p> <p>④ 学生及び教職員の貸出冊数を増加させる。</p> <p>⑤ 図書館広報活動の充実</p> <p>⑥ 移転後備品の整理・管理</p>	
<p>図書館の行動目標（D）</p> <p>①館内表示や利用しやすいコーナーの設置。</p> <p>②前年度より両学科の資料を充実させる。</p> <p>③蔵書点検を行い、資料の確認をする。</p> <p>④学生貸出冊数を増加させるため、諸会議等での状況報告・呼びかけ。</p> <p>⑤図書館企画の立案・実施や展示・図書館だより等により広報活動に努める。</p> <p>⑥大学共通の備品シールを貼る。</p>	
<p>図書館の評価基準（C）</p>	<p>評価結果</p>
①資料を探しやすい館内表示やコーナー設置ができたなら”3”	1 2 ③ 4
②前年度より両学科の蔵書構築が充実したら”3”	1 2 ③ 4
③蔵書点検を行い、資料の確認ができたなら”3”これから実施	1 2 ③ 4
④前年度より学生及び教職員の貸出冊数が増加したら”3”	1 2 ③ 4
⑤図書館企画の立案・実施及び展示コーナーの充実を図れたら”3”	1 2 ③ 4
⑥備品シールを貼ったら”3”現在作業中	1 2 ③ 4
<p>図書館の評価結果に基づく改善計画（A）</p> <p>平成27年10月に大学が移転し、以前と館内の配置が大幅に変更した。そのため、利用者が利用しやすい環境を引き続き整備していく。</p> <p>更に、利用者の顧客満足度を上げ入館者・貸出冊数増加に繋げるためにも、蔵書構築・図書館広報活動の充実、図書館職員の質の向上や学生への利用指導、更に教職員・他大学図書館との連携を強化するとともに、地域との連携も図り、本学図書館のよさを前面にアピールしていく。</p>	

評価結果は1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、4：かなり達成された

教育実践研究支援センターのPDCA（平成28年度）

教育実践研究支援センターの目的（使命と課題）	
<p>①本学の教育課程を運営していく上で中心的な役割を担う機関として、総合ビジネス学科の教育課程、児童教育学科の教育課程及び保育士養成課程における改革を支援する。</p> <p>②教育現場及び地域社会との連携を図ることにより、変動する社会に適切に対応した企業活動、教育活動、保育活動を行うことの出来る資質能力を身に付けた学生の養成を支援する。</p> <p style="text-align: center;">* <u>学生を支援します</u> * <u>教職員を支援します</u> * <u>地域貢献をします</u></p>	
教育実践研究支援センターの達成目標（P）	
<p>①学生及び過卒生支援の充実</p> <p>②教職員支援の充実</p> <p>③地域貢献の充実・支援</p>	
教育実践研究支援センターの行動目標（D）	
<p>①(1)教職を目指す「金曜講座」「基礎講座」等を開設し、学生及び過卒生の合格を支援する。 (2)公務員対策講座（幼・保）を開設し、学生及び過卒生の合格を支援する。 (3)トーキングカフェを開設し、学生の意見を取り入れ学生生活を豊かにする。 (4)教育相談（就職相談、進路相談、学業相談）を通し、学生の支援をする。 (5)教材研究、就職活動等の資料を整備し、学生の研究就職活動に寄与する。</p> <p>②(1)教育内容及び教育方法の検証及び改善への支援をする。 (2)教職員研修への推進を支援する。 (3)広報誌の発行（年2回）し、センター及び沖女短の宣伝に努める。</p> <p>③(1)学校教育支援ボランティアを派遣し、学校（幼・小）に寄与する。 (2)協働研究協力校の指定及び協働研究の充実に努める。 (3)教員免許状更新講習「いきいき白ゆり講座」を開設し、その内容の充実に努める。 (4)市町村行政（教育委員会）への講師の派遣、委員の派遣等、積極的に寄与する。 (5)NPO法人、民間教育団体へ協力し、地域活性化に寄与する。</p>	
教育実践研究支援センターの評価基準（C）	評価結果
①学生支援項目(1)～(5)までの達成率の平均	1 2 ③ 4
②教職員支援項目(1)～(3)までの達成率の平均	1 2 ③ 4
③教職員支援項目(1)～(3)までの達成率の平均	1 2 ③ 4
教育実践研究支援センターの評価結果に基づく改善計画（A）	
<p>①<u>学生を支援できたか（行動目標1）</u> (2)(5)は概ね達成されたが、(1)の基礎講座については、個々にあった段階的な指導を徹底してやる必要があり、学生支援課と対策を練りたい。(3)の学生とのトーキングカフェは早めに企画実行し、学生に寄与したい。</p> <p>②<u>教職員を支援できたか（行動目標2）</u> (3)は計画通りに実施できたが、(1)(2)についてはFD委員会と協働し、特色ある沖女学生の排出を目指し更なる発展のため、地域と連携し授業（アクティブラーニング等を取り入れた）等を改善し、グローバルに対応できる教師の資質の向上を支援する。</p> <p>③<u>地域貢献ができたか（行動目標3）</u> (3)については、教職員の派遣等良好に進み、地域から多くの評価をいただいているが、学生の授業研究会・研究発表会への参加が授業との関りでほとんど参加できず課題が残っている。</p>	

総務企画課の PDCA（平成 28 年度）

総務企画課の目的（使命と課題）	
事務局総務企画課は、一般的な業務（総務、会計、施設管理）をはじめ教務課、学生支援課等と連携をとり本学の土台とならなければならない。そのためには、時代に対応する職員の質の向上が不可欠であり、SD 活動の充実が必須の課題である。ひとりひとりが常に業務内容を通じて、本学の発展に寄与する意識を持ち、学生支援や教育支援に一層努めなければならない。	
総務企画課の達成目標（P）	
①業務内容の精選と効率化に努める。 ②予算方針に則り、予算の見直しを支出の削減に努める。 ③施設・設備の点検、修繕を日々行い学生の安全及び施設設備の維持管理に努める。 ④SD 活動の充実を図る。	
総務企画課の行動目標（D）	
①無駄を省き仕事の効率化を常に意識して業務に当たる。 ②費用の効果を上げる予算の計上を行う。（費用対効果） ③日々の施設点検内容を充実させ結果を有効活用する。 ④SD 活動への課題意識の醸成を図り FD 活動との連携を深める。	
総務企画課の評価基準（C）	評価結果
① 日常業務が計画的かつ効率的に実施することができれば、"3"とする。	1 ② 3 4
② 予算執行率が 80%であれば、"3"とする。	1 2 ③ 4
③ 施設点検整備表の作成管理ができれば、"3"とする。	1 ② 3 4
④ 施設点検整備表の作成管理ができれば "3"とする。	1 ② 3 4
総務企画課の評価結果に基づく改善計画（A）	
評価基準①： 日常業務を日々改革・改善を意識し積み重ねることにより大きな改善に繋がるよう個人及び全体の意識改革の向上を行う。 評価基準②： 評価基準③： 評価基準④： 評価基準⑤：	

評価結果は 1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、
4：かなり達成された

教務課のPDCA（平成28年度）

教務課の目的（使命と課題）	
<p>教務課の使命は、建学の精神を柱に学校教育法及び短大設置基準、各種免許・資格養成課程の基準等に基づいて次の業務を遂行することである。学籍及び教育課程、実習指導、履修登録・単位認定、卒業、各種免許状・資格、公開講座等に関すること。また、国の短期大学に関する入試制度改革の動向を踏まえて、教育の質向上に向けて、両学科をはじめ各部署との連携、関連する委員会の充実を図る。</p> <p>平成27年度に一部改正された建学の精神を受けて策定された教育目的・目標の共通理解とこれを基にした教育課程編成に関する業務と卒業に向けた学修支援に努める。</p> <p>入試広報に関しては、広報委員会が規定されたことを受けて業務が総務企画課に移管される。引継ぎをしっかりと行う。また、広く大学広報として、本学における研究活動の成果を地域に還元する公開講座及び出前講座を充実させる。</p>	
教務課の達成目標（P）	
<p>① 関連する法令及び基準を踏まえて業務を遂行する。</p> <p>② 建学の精神及び新たに策定された教育目的・目標の理解と学内外への周知を図る。</p> <p>③ 建学の精神や教育目的・目標等を踏まえたシラバスの作成を進める。</p> <p>④ 入試広報を充実させるべく引継ぎをしっかりと行う。</p> <p>⑤ 研究活動の成果を地域社会に還元すべく公開講座等を充実させる。</p>	
教務課の行動目標（D）	
<p>① 通年業務を遂行しつつ、計画的に規定を基に書類保管・保存・廃棄等の作業を実行する。</p> <p>② FD研修等を実施して教員への周知を図る。履修要覧等に掲載して学生への周知を図る。</p> <p>③ 新たな建学の精神等を踏まえて学籍管理、教育課程の編成・実施に向けて業務を遂行する。</p> <p>④ 入試広報に関して、引継ぎを十分に行う。</p> <p>⑤ 公開講座委員会を通して学内で共通認識を図り、公開講座を実施する。</p>	
教務課の評価基準（C）	評価結果
① 関連する法令等を遵守し業務が実施できれば、"3"とする。	1 2 ③ 4
② 学内外への周知が徹底できれば、"3"とする。	1 ② 3 4
③ 建学の精神を踏まえたシラバスの作成ができれば、"3"とする。	1 ② 3 4
④ 入試広報の引継ぎが実施できれば "3"とする。	1 2 ③ 4
⑤ 公開講座が3回以上実施できれば"3"とする。	1 2 3 ④
教務課の評価結果に基づく改善計画（A）	
<p>① 法令及び基準等に関する研修等を通して自己研鑽を積む。</p> <p>② 教育目的・目標の詳細を規定する。</p> <p>③ 建学の精神等を踏まえたシラバスの編成等を充実させる。</p> <p>④ 入試制度の振り返りを行い入試広報につなげる。</p> <p>⑤ 公開講座の定義、次年度方針を策定できたため、これに沿って計画的に実行する。</p>	

評価結果は1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、4：かなり達成された

学生支援課の PDCA（平成 28 年度）

学生支援課の目的（使命と課題）	
<p>本学の教育方針・実践目標の実現・・・主体的に学ぶ力を身につけ、いかなる時代の変化にも対応できるよう自己研鑽し課題発見能力を身につけ成長し続けることのできる人物の育成、品格を持って行動し、社会貢献のできる人材の育成が学生支援課の最も重要な使命と課題である。</p>	
学生支援課の達成目標（P）	
<p>① 自己成長実感の満足度の 90%以上を達成すること。 ② 就職率の 100%達成 ③ 学生リーダーの育成</p>	
学生支援課の行動目標（D）	
<p>① 学生の満足度を上げるために、各学科の教員と協力体制を構築し、学生のひとり一人の目標設定を行い自己成長確認のできる取り組みをしていく。 ② 学生同士で支え合っている体制づくりを支援するため各学科教員と各課職員で構成する学生委員会を組織する。 ③ メンタルヘルスアンケート調査を実施し、支援の必要な学生の早期発見と対策を各学科の教員との連携を通して行っていく。 ④ 就職率の 100%達成を目指して、卒業生の就職先訪問を行い、求人開拓及び本学教育へのフィードバックを迫る。 ⑤ 自分で考え行動できる学生を育てるために学生が自ら企画運営する活動を増やして行けるよう支援していく。 ⑥ リーダー養成講座を開催し、学生が学生同士で育ちあう環境作りをしていく。</p>	
学生支援課の評価基準（C）	評価結果
① 自己成長の確認ができる仕組みを作成することで、3	1 ② 3 4
② 委員会組織を検討できれば、3	1 ② 3 4
③ メンタルヘルスアンケートを作成し実施できたら、3	1 2 ③ 4
④ 2月末までに就職率 70%達成で、3	1 2 3 ④
⑤ 学生総会を開催できたら、3	1 2 ③ 4
⑥ 講座を開催できたら、3	① 2 3 4
学生支援課の評価結果に基づく改善計画（A）	
<p>各人の仕事の内容などの確認とフィードバックを行い計画したことが実行されるよう体制を整えていく。学生支援のためには、各部署各学科の連携が必要であり、早急に学生委員会を組織していく。</p>	

評価結果は 1：全く達成されなかった、2：あまり達成されなかった、3：ある程度達成された、4：かなり達成された

To Doリスト 部署(総合ビジネス学科)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	学習成果の査定について再検討し、学生への周知徹底を図る。	高	金城 渡久地	2016/11/1	2016/12/26	継続	学科会議において、自己点検及び第三者評価の内容を確認し、学習成果の確認を行った。	次年度の学習ポートフォリオ、専任教員で担当するプレゼミ及び卒論研究ゼミナールの際に、学生に学習成果の査定についての説明を行う準備を進める。
2	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	資格取得率、検定合格率のデータを収集し、学生指導につなげる。	高	福里 仲村	2016/11/1	2016/12/26	継続	資格取得率については、データを収集し学科会議において確認した。検定結果についても全体的なデータを収集するよう努力した。	資格検定の全体的なデータを収集し、学生指導につなげるよう学科と教務課で連携することが確認された。
3	基準Ⅱ教育課程と学生支援	シラバスの総点検、評価基準を明確化させる。	高	教務委員 金城・又吉	2016/11/1	2016/12/26	継続	第三者評価で指摘された事項について学科会議において確認を行い、教務委員会において変更箇所の確認を行った。	教務委員会において、学科会議と連動し変更箇所の確認を行い、シラバスの変更を行った。
4	共同研究	学科全体で取り組む、共同研究の推進	高	学科長 総じ専任 教員	2016/11/1	2016/12/26	継続	学科会議において、総合ビジネス学科全体で取り組む共同研究の必要性とその方向性を確認した。	MICE建設に伴う総合ビジネス学科としてどのように連携を深めていくのかについて、次年度共同研究を行うことを決定した。
5	総点検	プロジェクトに関する総点検を、教員全員で行う	高	学科会議 総じ専任 教員	2016/11/1	2016/12/26	継続	学科会議において、自己点検及び第三者評価の内容を確認し、学習成果の確認を行った。	学科会議において、連番1～4について、経過報告を行い、次年度の課題及び学科としてのプロジェクトの推進を進めることを確認した。

To Doリスト 部署(児童教育学科)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	教育目的・目標の学内外への周知徹底を図る。	高	学科長・補佐	12/01/2016	03/31/2017	継続	他部署との連携を密に、大学全体の流れを核に進める。	大学案内を通して公開した。学内では教員が授業展開の中で学生への周知を図ったケースもあるが、徹底できていない。今後改善を図る。
2	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	学習成果の査定について再検討し、学生への周知徹底を図る。	高	学科長・補佐	12/15/2016	03/31/2017	継続	年度末にGPA履修カルテ、ゼミ、実践演習の課題等の内容を用いて学科FDの機会を活用し、じっくり検討する。	今年度の振り返りをしながら、まずは、次年度2年次に向けて周知ができるよう取り組みたい。
3	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	カリキュラムツリーを作成する。	高	ワーキングチーム	2016/12/2	2017/2/1	継続	カリキュラムマップ作成後、ワーキングチームにて検討を重ねる。	たたき台を作成した段階である。最終の詰めを今年度内に行う。
5	基準Ⅱ教育課程と学生支援	学生へのシラバス活用法を周知徹底する。	中	各担任 教務委員	2016/12/2	2016/12/26	継続	各担任が学生への学科オリエンテーションやクラスミーティングの場で周知することを目指す。	教員間の連携不足により達成できていないことも事実として受け止め、早急に取り組む。
6	基準Ⅱ教育課程と学生支援	教員へのシラバス記入法の周知徹底を図る。	高	教務委員 FD委員	2016/12/5	2016/12/26	完了	教務委員会からの報告を学科会議で行い、それに基づき後期シラバスを提出した。	各教員は記入方を理解したが、第3者によるチェック形態への理解が不十分である。
7	基準Ⅱ教育課程と学生支援	学生の就職支援へ向けた学生支援との連携強化の徹底を図る。	高	就職委員 学科長	2016/12/1	2016/12/26	保留	就職委員会を通して、学生支援課等との話し合いの場を設定し、就職活動に向け共有する事項を確認する。	就職委員会の開催がないことを、まず、早急に改善してほしい。支援課、児童科それぞれの就職支援体制から、殆ど変化がない状況である。
8	基準Ⅱ教育課程と学生支援 基準Ⅲ教育資源と財的資源	FD活動の「質」的強化と研究活動(共同・協働)の連結を図る。	中～高	FD委員 ワーキングチーム	2016/12/15	2107/2/28	継続	FD委員会との連携を密にし、FDに特化したワーキング会議等を可能な限り設ける。	FD委員会と学科FDの接続強化が課題のままである。非常勤を交えたFDを軸に内容を掘り下げていくことに、早急に取り組む。

To Doリスト 部署(教育実践研究支援センター)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準ⅢA-2専任教員の教育研究活動	教育実践研究支援センター研究紀要の発行	高	小林	2016/10/1	2017/3/31	継続	教育実践研究支援センターの研究報告書を研究紀要として発行する。	教育実践研究支援センター員の研究教育活動を推進し、成果物を発行する。

To Doリスト (図書館)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅲ教育資源と財的資源	図書館備品の管理(備品シールの貼り付け)	高	板良敷	2016/11/1	2017/3/31	継続		移転後備品管理が出来ていなかった為、平成28年度中に備品シールを貼る予定で作業開始。残りわずかの為今年度中に作業終了する。

To Doリスト 部署(総務企画課)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅲ教育資源と財的資源	外的資金の規程の整備（研究費の不正行為等）	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続		
2	基準Ⅲ教育資源と財的資源	個人情報に関する規程の整備（マイナンバー等）	高	高宮城	2016/11/1	2017/3/31	継続	今度の理事会・評議員会で提案予定	規程を整備し教職員に周知することにより、プロジェクトの解決につなげる。
3	基準Ⅲ教育資源と財的資源	資産管理システムの整備（備品シール）等	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続	現在、備品とシステムのデータを照らし合わせながら、備品シールを貼る作業を実施中である。	資産を把握することが可能となる。
4	基準Ⅲ教育資源と財的資源	防災規程、危機管理規程の整備（マニュアル等）	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続	今度の理事会・評議員会で提案予定	規程を整備し教職員に周知することにより、プロジェクトの解決につなげる。
5	基準Ⅳリーダーシップとガバナンス	寄附行為の整備（常任理事の対処）	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続	今度の理事会・評議員会で提案予定	規程を整備し教職員に周知することにより、プロジェクトの解決につなげる。
6	基準Ⅳリーダーシップとガバナンス	HPの充実（分かりやすい表示）	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続	平成29年度よりホームページをリニューアル予定	ホームページをリニューアルすることにより、沖縄女子短期大学広報の発展に寄与する。
7	基準Ⅳリーダーシップとガバナンス	非常勤職員の就業規則の整備	高	島袋	2016/11/1	2017/3/31	継続	今度の理事会・評議員会で提案予定	規程を整備し教職員に周知することにより、プロジェクトの解決につなげる。

To Doリスト 部署(教務課)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	GPAの周知徹底を図る	高	教務委員会	12/05/2017		継続	学科オリエンテーションにおいて、履修要覧を活用するなどして周知徹底する。	教務課を中心に学科オリエンテーションで実施しているが、教員との共通理解が不十分であることがわかった。教務委員会を中心に今後改善を図る。
2	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	免許・資格を統計的にまとめる	中	教務委員会 教務課	2017/2/1	2017/3/17	継続	卒業判定会議の結果を受けて、免許・資格取得を確認し、統計的にまとめる。	卒業式要覧を通して公開している。今後は免許・資格取得状況の統計資料としてまとめる作業を進める。(IR推進委員会設置との関連で検討)
3	基準Ⅰ建学の精神と教育の効果	各学科、FD委員会連携の下、建学の精神を浸透させる	中	FD委員会 教務委員会	2017/1/10	2017/3/17	完了	FD研修会・非常勤懇談会で実施してきたが、学生への周知を進める。	卒業式においてテーマを検討した際に、建学の精神を踏まえたことは成果ではない。
4	基準Ⅱ教育課程と学習支援	建学の精神等を基にシラバス編成を再検討する	高	教務委員会	2016/9/29	2016/11/17	完了	第三者評価の実施調査において指摘された内容を翌日の合同FD研修会・懇談会において報告等を行う。	第三者評価の指摘事項等の報告を行うことで、シラバス作成の共通認識がこれまでよりも深まった。
5	基準Ⅱ教育課程と学習支援	シラバス編成方針を浸透させる	高	教務委員会	2017/1/10	2016/11/17	完了	教務委員会にて方針案を検討し、学科会議で承認を得る。	承認されたシラバス編成方針に従って、各学科及び非常勤講師へシラバス作成の依頼を行った。
6	基準Ⅱ教育課程と学習支援	教育研究上の目的の細則を定める	高	教務課		2017/3/23	継続	保留になっている大学全体の3つのポリシーの策定決定に向けて、教務部長が会議等で策定作業の具体的な提案をする。	学長を中心に大学全体の3つのポリシーを策定した。3月23日の理事会承認後、学生便覧、大学案内等に掲載する。
7	基準Ⅱ教育課程と学習支援	大学全体の3つのポリシーを文科省の方針を踏まえて策定する	高	学長		2017/3/23	継続	保留になっている大学全体の3つのポリシーの策定決定に向けて、教務部長が会議等で策定作業の具体的な提案をする。	充実発展検討委員会の経過を踏まえて、部館局センター長会議で検討した結果を学内理事等会議で承認した。
8	基準Ⅱ教育課程と学習支援	授業に関するアンケートを再検討する	高	FD委員会	2017/12/5	2017/3/8	継続	FD委員会を中心に第三者評価の提案事項を踏まえて検討する。	FD委員会に提案したが、年度内に変更しないことが確認された。次年度、アンケート項目数や内容の見直しを図る必要がある。
9	基準Ⅱ教育課程と学習支援	学生のアクティブアカデミーの活用を促進する	中	教務委員会 教務課	2017/11/17	2017/3/29	継続	学科オリエンテーションの際に、教務課より資料を基に説明する。	アクティブアカデミーの活用については、履修要覧に掲載している。今後は、両学科と共有し学生指導に活用する。
10	選択的評価基準「教養教育」	建学の精神を踏まえた特色ある教養教育について検討する	高	教務委員会	2017/7/28	2017/3/8	継続	教務委員会下部組織の共通科目専門検討委員会において検討する。	共通科目専門検討委員会の中間報告を受けて、次年度の課題を教務委員会(教務部長案)で確認した。
11	基準Ⅲ教育資源と財的資源	教材備品の管理を徹底する。	高	教務委員会	2017/11/17	2016/12/5	継続	教務委員会で考え方を整理し、教務課、両学科の調整を行う。	教務委員会で備品管理の考え方を整理し、実際に両学科と教務課で調整を実施した。次年度は、備品台帳も含め、システムを整える必要がある。

To Doリスト 部署(学生支援課)

連番	基準	プロジェクト	優先度	担当者	予定開始日	予定終了日	状況	対策	成果
1	基準Ⅱ 教育課程と学生支援	学生の投書箱の設置。	高	前里	2017/4/1	2017/4/30	継続	前期スタートと同時に投書箱を設置し、学生からの意見を聴取する。	今年度を実施予定で進めていたが、期間の設定が短くて実施できなかったため、新学年度スタートと同時に学生支援課前にて実施する。
2	基準Ⅱ 教育課程と学生支援	発達障がい、学習障がいの学生への対応について。	高	又吉(保健室) 前里	2017/4/1		継続	4月に学生の障がい等についての調査をし、対応策を検討していく。	